

## 北海道・三陸沖後発地震注意報（北海道・三陸沖においてM7.0以上の地震発生後、更に巨大地震が発生する可能性がある。）の運用が始まりました<sup>(R4.12.16)</sup>

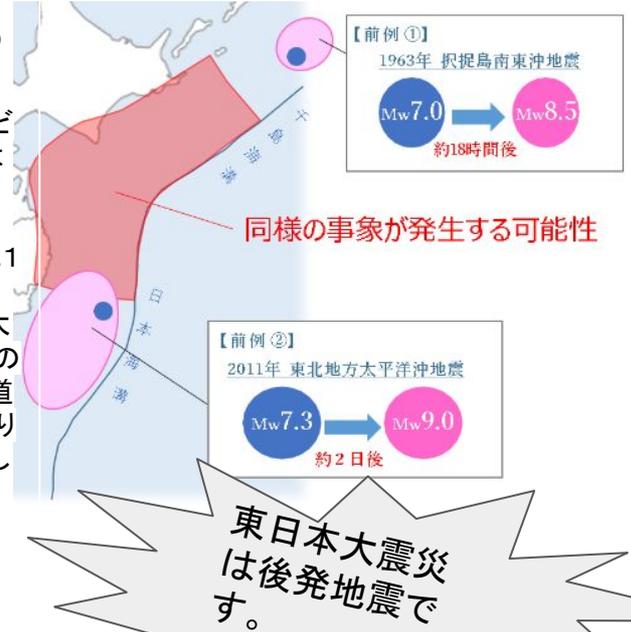
北海道・三陸沖後発地震注意報とは、千島海溝および日本海溝沿いにおいて巨大地震発生の可能性が高まった場合に、日本の内閣府および気象庁が発信する情報のことです。情報が発信された際には、北海道から千葉県にかけての太平洋側で、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震で強い揺れや高い津波が想定される地域では、後発地震の発生に備えた防災対応をとる必要があります。

### どうして北海道・三陸沖後発地震注意報が出されるのか？

東日本大震災(M9.0)が2011年の3月11日に発生したことは、ほとんどの人が知っていると思います。しかし、実はその2日前の3月9日にはM7.3の地震が発生していました。また、1963年には、M7.0の地震発生から18時間後にM8.5の地震が発生しています。

実際に後発地震が発生する確率は、世界の事例を踏まえても百回に1回程度と低いものの、発生した場合には北海道から千葉県にかけての広い範囲で甚大な被害が想定されます。巨大地震が発生した際の甚大な被害を少しでも軽減するため、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の想定震源域とその周辺でM7以上の地震が発生した場合には、「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発信し、大地震の発生可能性が平時よりも相対的に高まっているとして、後発地震への注意を促すこととなりました。

熊本ではこのような注意報は出されませんが、今後北海道や三陸地方に受験や旅行等で行く際には、十分な備えをしましょう。



### 北海道・三陸沖 地震・津波に備えを！

マグニチュード M7.0以上の大地震が起きたら…

**続いて発生する巨大地震の可能性！ 情報で備えを**

「北海道・三陸沖後発地震注意情報」2022年12月運用開始

※情報が発信されたとしても、必ず巨大地震が発生するとは限りません。

#### すぐに避難できる態勢の準備を！

巨大地震が発生した場合に、北海道から千葉県にかけての広い範囲で想定される甚大な被害に対し、1週間程度、備えの再確認や迅速な避難態勢の準備を。

- 枕元に避難を促す
- 非常持出品の常時携帯
- 緊急情報の取得体制の確保
- 想定されるリスクから身の安全の確保
- 日頃からの備えの再確認

内閣府(防災担当)・気象庁

### 被害想定と防災対策

#### 日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震

被害想定	防災対策
・最大津波高約30m	対策で死者8割減
・最大死者約19万9千人 <small>※日本海溝沿いの地震</small>	①津波即避難の徹底
・低体温症死亡リスク	②避難ビル等の活用
	③防寒備品の準備

※震源地に隔らず実地的に起こる地震でも上記被害が写り得ます。

#### 想定される津波と震度

日本海溝沿いの地震	千島海溝沿いの地震
津波高 最大津波高 約30m	津波高 最大津波高 約20m
震度分布 最大震度約7	震度分布 最大震度約7

内閣府(防災担当)・気象庁